

眉山山体崩壊（島原大変・肥後迷惑-日本史上最大の山体崩壊災害）

概要：1792 年、雲仙岳の火山活動により、島原城下を眼下に見据える眉山（約 4 千年前、雲仙岳一連の噴火で形成された溶岩ドーム型山体ー標高 819m）南側の一部が崩壊し、島原地区で約 9 千人、津波で対岸肥後・熊本地区約 6 千人の犠牲者を出しました。

【参考施設】「がまだすドーム（雲仙岳災害記念館-〒855-0879 島原市平成町 1-1）」

『島原大変（紙芝居動画）』



1 山体崩壊の規模

眉山山体の約 1／6（約 0.4 km³ー東京ドーム約 270 杯）が崩壊し、「岩屑（がんせつ）なだれ」となって島原城下の南半分を埋め尽くし、そのまま有明海へと突入しました。

有明海に突入した土砂は巨大津波（約 20m）を引き起こし、肥後・熊本地方を約 20 分後には襲い、又、反射波となって更に島原城下町を襲い多大の犠牲者を出しました。

2 災害発生のメカニズム

1991 年の平成新山大火砕流災害発生と同じような溶岩ドーム型（粘り気の強い安山岩質のマグマが地上に押し出され、釣鐘状に固まり、で非常に脆い山体を形成）であったため、5 ヶ月に亘る半島中心部に位置する雲仙岳の火山活動（地震と地下節水の上昇）により、眉山東側が山頂付近から一挙に崩壊し、崩壊土砂がそのまま有明海まで到達した。

一挙に有明海に到達した土砂は、急激に海面を持ち上げたため、津波を発生させ対岸に押し寄せるとともに、反射波となって島原半島を襲うことになりました。

現在の島原外港地区に存在する「九十九島（ツクモジマ）」と呼ばれる小島の数々は、当時の崩れ落ちた眉山の一部が形成したものとされており。

3 島原藩の緊急事態対応

当時の藩主「松平忠恕（マツダ イウ タダヒロ）」は、災害発生直後から藩に緊急事態態勢を敷き、藩の家臣を総動員して被災住民の救助に当たらせるとともに、藩医や藩内の村医者を組織して医療所を数多く開設させ救急医療体制を作り上げた。又、負傷者の収容所や被災民の炊き出しも実施し、民心の安定に腐心したと記録されている様です。

（島原の乱当時の松倉藩主時代の藩主及び家臣団共に隔世の違いですネ。）

（参考）「令和 8 年熊本地震(2026 年 7 月 28 日)」で、眉山の数か所で小規模な崩壊が発生しました。